



理事会の様子

日置地区社会教育振興会第2回理事会

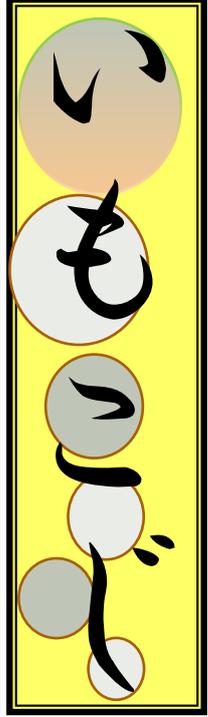
令和3年度日置地区社会教育振興会表彰候補者・団体の審査について
 2市から地域社会の振興に大きく貢献した4団体8個人について推薦がありました。様々な視点から審議し、表彰者を決定しました。

なお、表彰は令和4年2月5日に開催される日置地区生涯学習推進大会（いちき串木野市）で行われます。

今後の社会教育振興会事業について新型コロナウイルスの感染が急速に拡大してきたため、各市から、今後の各事業の実施について慎重な意見が相次ぎ、中止を余儀なくされる事業もありました。

9月17日（金）、「まん延防止等重点措置」が適用されている最中、鹿児島地域振興局において、社会教育に関する3つの重要な会議が開催されました。コロナ禍の中で2市2村が抱える課題等が浮き彫りになりました。

新型コロナウイルス感染拡大に苦慮する諸会議



第49号
 【年3回発行】
 日置地区
 社会教育振興会
 〈事務局〉
 鹿児島教育
 事務所

第2回鹿児島地区社会教育課長等会議

「地区社会教育行政の推進」

協議の後、本教育事務所之牧之瀬指導主事が、8月の地区校長研修会での指導内容を基に、学校教育と社会教育の連携の在り方について具体的な指導がありました。

山鹿指導課長のまとめと指導（抜粋）

：自分の地域でどんな人材を育てたいのかを明確にする。地域の力は大きい。その力は各組織・団体等が連携を密にして初めて発揮される。

上記理事会の報告を受け、今後の地区社会教育振興会の行事を左表のように決定しました。

- 中止**
 ◆ 日置地区公民館経営研究会
 ◆ 鹿児島地区社会教育委員・社会教育担当者等研修会（11月11日へ）
- 延期**
 ◆ 日置地区ふるさとを興す保健・福祉学習及び組織・教育・食料・環境学習大会（12月9日へ）

鹿児島地区子ども会育成連絡協議会第2回運営委員会

運営委員会の様子



協議口では「各市村地域子ども会組織の現状」と「各市村の青少年健全育成活動の取組状況」

- 【地区子ども会育成連絡協議会表彰】
 （敬称略）
- 高橋 宏明（日置市）
 - 四郎園子ども会育成会（日置市）
 - つじヶ丘1区子ども会（日置市）
 - 中央地区子ども会（いちき串木野市）
 - 本浦地区子ども会（いちき串木野市）

協議口では鹿児島地区子ども会育成連絡協議会表彰の審査が行われました。結果は次のとおりです。

★ 11月27日に開催される予定の鹿児島地区子ども会、指導者・育成者研修会はコロナ禍のため、書面開催になりました。

日和下駄

『目標』を持つ大切さ
 日置市教育委員会東市来教育振興課
 課長 恒吉 和正

コロナ禍で1年延期された東京2020オリンピック・パラリンピックでしたが、多くの感動をもらいました。一方で、多くのアスリートは、この大会に向けて、目標を定め、一生懸命努力を積み重ねてきました。

「目標」を持つことの大切さ、このことは私の地元日置市出身の元プロ野球選手、横田慎太郎著書の「奇跡のバックホーム」からも伝わってきます。彼はプロ入り3年目で開幕戦に先発出場しましたが、脳腫瘍を患い視力の後遺症で24歳で引退になりました。彼が引退試合で見せた最後のプレーが、この本のタイトルとなっています。

本では、小さい頃からプロ野球選手になるために、日々目標を立て練習してきたことが書かれています。そんな努力をして、せつかく掴んだ夢が病で断念させられたショックの大きさは計り知れません。

この本の出版前には脊髄腫瘍にも見舞われましたが、見事、病を乗り越えました。そこには、やはり横田選手の高い目標があったからです。

前向きに病に戦う姿を皆に伝え多くの方に元気を与える。これが僕の義務であり、目標だ。



強い心と思いやりの心を育てる

アドベンチャーinこしき島

いちき串木野市
教育委員会

いちき串木野市では、小・中学生を対象に、7月29日から3泊4日の日程で「アドベンチャーinこしき島」事業を行いました。

甕島の雄大な自然の中で宿泊研修を通して交流を深めると共に、様々な活動に挑戦し、自己を磨き豊かで力強い心を養うことを目的としています。

令和元年度は台風で、令和2年度はコロナ感染症拡大で中止。3年ぶりの実施となりました。



甕大橋

コロナ対策等を徹底した宿泊研修

コロナ禍で、いろいろな体験活動が中止になっている影響なのか定員30人に対し、57人の申し込みがありました。抽選の結果、小学生22人、中学生8人、高校生ボランティア6人、事務局職員9人で上甕県民自然レクリエーション村を拠点として活動しました。熱中症対策と併せて、活動中や休憩中など、その都度状況に応じてマスクの着用、消毒など新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの研修となりました。

3泊4日の充実した宿泊研修

1日目は約1時間の船旅の後、灼熱の暑さの中、里港からキャンプ村まで11キロの道のりを上り坂に苦戦しながら2時間かけて自転車で移

動しました。

2日目は、「長目の浜」まで往復

10キロのサイクリング。前日の疲れや暑さで、体調が悪くなる人もいましたが、展望所

景色を満喫しました。上甕交流センターで弁当を食べた後、交流活動をして夜は星空観測、

花火を楽しみました。

3日目は、昨年8月に甕大橋が開通したので、バスを借り上げて下甕

島見学をしました。鹿島支所内にある甕ミュージアム準備室で、恐竜の化石を見学し、恐竜のリアルな大きさに驚きながら発掘の手順などを学習し、また、展望所や瀬尾観音三滝など甕島の雄大な自然と絶景も堪能しました。

夜はバーベキュー

で舌鼓を打ち、キャンプファイヤーでは、グループごとにクイズや心理テストなどレクリエーションで盛り上がりました。

終盤では、消えゆく炎を静かに見つめて、甕島最後の夜を過ごしました。



火を囲んで



展望所にて

最終日は、キャンプ村から里港へ移動です。自転車での移動に慣れたのか、予定時間より早く到着できたので、家族にお土産をゆつくり買う時間が確保できました。

自らの成長を感じた宿泊研修

研修期間中の朝食・夕食は自炊でした。事前研修で班ごとに決めたメニューに合わせて食材の買い出しをして調理しました。米を炊くとき水の分量を間違えたり、食材を買い忘れたり、包丁に至っては、大人から見ると背筋が凍るような使い方も見られました。日を重ねるうちに班で協力しながら調理できるようになりました。いつも食事を作ってくれた親の大変さや苦労、親の愛情が分かったようです。

4日間、自転車の移動は坂道も多



ペダルの重さを感じながら

く、一生懸命ペダルを踏み、友達と寝食を共にしながら、小さなトラブルはあったものの、互いに声を掛け合いながら協力して活動することができました。

様々な体験や経験を通して、多くを学び、一人一人がいろいろな感じ、成長し、変わるきっかけをつくること、できたのではないかと思います。

地域を創る「ふるさと美化活動」

「十島村口之島子ども会」

1年に2〜3回、中学校の部活動がない土曜日に、地域内の清掃活動や花壇の緑化活動を子ども会でも実施しています。

今年の1回目は、7月3日(土)に、島内の2つの花壇「青空ガーデン」と「マリンガーデン」の草刈りや植ええを行いました。

青空ガーデンには子どもたちが種の付けから育苗した花が咲いています。マリーゴールドや百日草、ホウセンカの周りを、汗いっぱいかきながら草刈りしました。



青空ガーデン草刈り

マリンガーデンでは、土を耕し整えてヒマワリの種をまきました。近くの郵便局の御協力をいただき「奇跡のヒマワリ」(東日本大震災で生き残ったヒマワリ)の種も一緒にまきました。水道は道向かいの方に御協力いただきました。



マリンガーデン植え

地域の御支援と子どもたちの優しさで咲く花が、島の和みを大きく広げてくれることを願いながら。

歴史人物探訪

島津貴久没後450年

日置市教育委員会

令和3年は、島津貴久の没後450年の節目の年です。貴久は、永正11年(1514)、島津分家の伊作・相州家当主忠良(日新)の長男として、田布施(南さつま市)で生まれました。大永6・7年(1526・27)頃、島津本家第14代当主勝久の養子となって清水城(鹿児島市)に入り、本家家督を継ぎます。しかし、これに同じ島津分家の薩州家島津実久が強く反発。勝久も本家家督を取り戻したため、抗争となりました。

同7年、実久方の攻勢により、清水城を追われた貴久は、辛うじて故郷田布施に逃れました。再起を図る貴久と父忠良は、伊作家の元本拠地伊作城(当市吹上町・県指定史跡)を攻略しました。貴久は、この城で元服したとされます。

貴久の初陣



天文2年(1533)、貴久方の南郷城主桑波田孫六が離反し、勝久・実久方に寝返ります。同年、孫六が狩りに出るとの情報により、忠良は、この隙に南郷城(同町・市指定史跡)を落としました。城を奪い返そうとする勝久・実久方を、忠良は50騎余りの兵を率い、貴久や弟の忠将と挟撃して、これを撃破しました。この戦いは貴久の初陣とされています。

同年末には、実久方で日置(当市日吉町)領主の山田有親が貴久に降伏。同5年、貴久らは、実久方の拠点一字治城(当市伊集院町)を攻略し、貴久は伊集院周辺を制圧。これにより鹿児島の実久方は南薩に退去しました。貴久は同14、19年に一字治城を居城とし、フランシスコ・ザビエル



一字治城跡(現城山公園)

島津家、戦国大名へ

同7年末、貴久は、加世田をめぐり実久方と対立。貴久らは、実久方の加世田別府城(南さつま市)を夜襲し、激戦の末、攻め落としました。この加世田攻略に先立ち、貴久らは大汝牟遅神社(当市吹上町)で流鏝馬を奉納し、戦勝祈願を行ったとされます。これが、現在まで続く伊作流鏝馬(県指定無形民俗文化財)です。



吹上大汝牟遅神社の流鏝馬

翌年、市来鶴丸城(当市市来町・市指定史跡)を攻略した貴久は薩摩半島を掌握し、一躍、島津家を戦国大名へと成長させました。

日置地区周辺には、貴久の成長過程をうかがうことができる史跡が数多く残っています。

親子ふれあい講座「ペーパークラフト」

日置市教育委員会

日置市青少年育成市民会議では家庭教育支援活動推進の一環として、「親子ふれあい講座」を各地域女性連会員をサポーターに、年二回(夏・冬)実施しています。

吹上地域では、夏に「ペーパークラフト」講座を実施しました。サポーターは、適切な助言ができるように事前研修会を実施し、当日はコロナ対策を万全にして臨みました。

参加した親子は、指導者の丁寧な指導の下、手順に従って小物入れを作成しました。サポーターの皆さんは、机間巡視をしながら、困っている人に個別に適切な助言をして、お手伝いをしてくださいました。きょうだいで協力したり、親子で助け合ったりしながら、オリジナルの小物入れが完成し、互いの作品を観賞しました。



サポーター大活躍

感想文には、サポーターへの感謝の言葉や作品の完成を喜ぶ声・参加に、満足の言葉が寄せられ、サポーター共々、喜びこぞでした。



完成したよ!

高円宮殿下記念地域芸能受賞

硫黄島八朔太鼓踊り保存会

一般財団法人地域伝統芸能活用センターが、地域伝統芸能の保存や継承、活用に抜きんできた功績のあった団体や個人に授与する「高円宮殿下記念地域伝統芸能賞」に、三島村に伝わる硫黄島八朔太鼓踊り保存会が今年度選ばれました。

この賞は平成15年から設けられました。この賞は、県内では初の受賞となりました。

八朔踊りは、四百年以上伝わる太鼓踊りの最中に奇怪な仮面神「メンドン(悪魔払いの神)」が登場するというユニークな伝統芸能で、国指定無形民俗文化財に指定されています。また、「メンドン」はユネスコ無形文化遺産に登録されています。



観客の魔を祓うメンドン

鉦を持った歌い手が歌い、矢旗を背負い太鼓を抱えた踊り手が独特の節に合わせて賑やかに踊ります。踊りが佳境に入る頃、「メンドン」が現れ、スツペン木と呼ばれる神木で見物人を追いかけてたりして悪魔払いをします。

保存会の方々は、今回の受賞で八朔踊りが全国に広く知れ渡ることを願うとともに、今後の伝承への意欲を更に高めました。

あなたを 私を 大切にすることです
《鹿児島地区人権教育ブロック別指導者研修会》

コロナ禍の影響で延期になっていた鹿児島地区社会教育委員及び社会教育担当者等研修会が、11月11日(木)、いちき串木野市いちきアクアホールで開催されました。今年度、本研修会は鹿児島地区人権教育ブロック別指導者研修会を兼ねて行われ、感染防止の観点から参加者を50人に絞りました。

講師は、認定こども園紫原幼稚園の花月敏郎園長です。花月敏郎氏は県教育庁人権同和教育課長や鹿児島市立紫原中学校校長等を歴任されています。

演題は「あなたをそして私を大切にすることです」でした。



講師の花月敏郎氏

多様性と調和が求められるこれからの社会。そこでは「互いに認め合い、尊重することが不可欠である」

「一つの声掛けが自己肯定感を左右する」、また、「リフレーミングすることで人の見方が変わり、相手を肯定的に捉えることができる」等分かりやすく御講演いただきました。

さらに、同和問題を含む様々な人権課題については、「かわいそうではなく、共感、尊敬することによって、差別・偏見がなくなっていく」という指導もいただきました。

参加者は最初から最後まで花月氏の人柄が溢れるトークと巧みな話術で、引き込まれていきました。

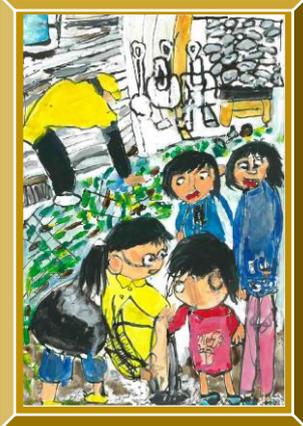
参加者一人一人が自らの人権意識・人権感覚と照らし合わせつつ、心揺り動かされた様子が、研修後の

新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底
地域が育む「かごしまの教育」

県民週間は学校等で実施される多彩な行事や教育活動を通して、県民が本県の教育について、考える気運を高め、教育の充実と発展を図るものです。

昨年度は、コロナ禍の影響により、行事の規模縮小や参加者の制限といった対応を余儀なくされました。

今年度も感染防止対策を講じ、可能な限り授業参観や特色ある学校行事を実施し、保護者等に子どもたちの学びの姿を見ていただきました。



辻幸奈さんの作品

感想から伝わってきました。

- ❖ 心に響く素敵な講演でした。今日の学びを生かし、一つ一つの言葉を大切にしていきたい。
- ❖ 思い込みや先入観で知らず知らずのうち、偏見や差別をしているかもしれないと反省した。
- ❖ 自分の欠点も肯定的にとらえ、前向きに生きていこうと思う。

本研修会で高まった人権課題への意識が各社会教育委員関係の学習に拡がり、多くの方の人権意識の高揚につながることを願っています。

11月1日
～7日

地域が育む「かごしまの教育」県民週間県表彰

ポスター原画の部

特選	十島村立諏訪之瀬島小4年 辻幸奈	地域の人とやきいもパーティー
入選	十島村立諏訪之瀬島小3年 濱田幸奈	子どもたちで作ったカレーライスです 食べてください
入選	十島村立諏訪之瀬島小6年 濱田千明	みんなで1つ 絆のつなを引き寄せろ

標語の部

入選	十島村立諏訪之瀬島小4年 濱田幸奈	カレンダー 来る日に〇つけ けんみん週間
入選	十島村立小宝島小5年 岩下捷人	地域はぼくらの応えんだん ぼくらは地域の応えんだん

受賞 おめでとうございます

- 【全国・九州・県表彰】※敬称略
- ★全国優良読書グループ表彰
 - 串木野小学校読み聞かせグループ「花さき山」(いちき串木野市)
- ★九州ブロックPTA協議会表彰
 - 湯田小学校PTA(日置市)
- ★県優良読書グループ表彰
 - 片泊かめんで文庫(三島村)
- ★県優良少年少女団体表彰
 - 妙円寺7区子ども会(日置市)
 - 藤元地区子ども会(日置市)
- ★県子ども会育成連絡協議会表彰
 - 立野子ども会育成会(日置市)
 - 秋山 俊一(いちき串木野市)
- ★県青少年育成県民会議表彰
 - 柿元 紘一(日置市)

令和3年度 県PTA連合会主催
「楽しい子育てコンクール」(3行詩)

【中学生の部】優秀賞

大会で母を見つけて良いところを見せようとはりきるべく 結果はどうでもほめてくれる優しい母

伊集院中学校1年 山下 航輝

編集後記

同じ航路も初航路

遠い昔の新任研修会での講師の言葉。幾たび同じ航路を通っても、初航路なのだ、と自戒しつつ、身を引き締めよという教えである。「いもこじ」はいよいよ次回第50号を迎える。創刊時の思いを大切に、情報を発信していきたい。(事務局 田中)